

第8期 事業報告書

平成17年4月1日から平成18年3月31日まで

 株式会社トランスジェニック

(証券コード 2342)



Trans Genic Inc.

経営理念

CONTENTS

株主の皆様へ	P2
事業の概況	P3
セグメント情報	P4
今後の事業展開	P5・P6
財務諸表	P7・P8
株式の状況	P9
会社の概況	P10
株主メモ	裏表紙

生物個体からゲノムにいたる

生命資源の開発を通じて

基盤研究および医学・医療の場に

遺伝情報を提供し

その未来に資するとともに

世界の人々の健康と豊かな

暮らしの実現に貢献する

株主の皆様へ



代表取締役社長

是石 匡宏

株主の皆様には、日頃より格別のご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。第8期（平成17年4月1日～平成18年3月31日）の事業の概況をご報告申し上げます。

当期は、平成13年12月からスタートした遺伝子破壊マウスを作製し、優先的に情報提供するプロジェクトにおいて、アステラス製薬株式会社及び住友化学株式会社に対する配列情報の開示が完了しました。引き続き表現型解析情報の提供、継続的使用権の許諾、そして将来のマイルストーンフィーやランニングロイヤリティを獲得するための前提となる共同による特許出願につなげてまいります。また、非独占に情報提供する枠組みにおいても、代理店を選定し、販売網強化の成果が徐々に成果が出始めているほか、製薬企業等から依頼を受け、特定遺伝子を破壊した遺伝子破壊マウスを作製する受託事業については、新たに導入した高効率のES細胞を用いた作製受託が増加してきております。

当期の業績は、配列情報の開示が完了し、同売上高が前期比で大きく減少したこと等から、売上高が前期比73%の470百万円となりました。損益につきましては、配列情報開示のための遺伝子破壊マウス作製に係る研究開発費が減少したほか経費の見直し等、コスト削減にも取り組んだ結果、経常損失が928百万円（前期は1,299百万円の損失）、当期純損失は964百万円（同1,349百万円の損失）と損失額を大幅に減少することができました。

今後につきましては、自社での創薬ターゲットの開発に向けた研究開発を進めるほか、GANPプロジェクトや尿サンプルによる癌診断に利用される体外診断薬開発のさらなる進展に取り組んでまいります。さらには蓄積してきた生命資源や経営資源を活用した新たな事業展開の検討を行ってまいります。

株主の皆様におかれましては、こうした当社の姿勢に何卒ご理解を賜り、一層のご支援をいただきますよう、お願い申し上げます。

平成18年6月

事業の概況

当期の業績につきましては、売上高が470百万円（前期比73%）となりました。事業部門別の内訳は、遺伝子破壊マウス事業の売上高が401百万円（同70%）、抗体事業が68百万円（同102%）であります。抗体事業においては、GANPマウスを用いた抗体作製受託等が増加するなど堅調に推移しましたが、遺伝子破壊マウス事業の配列情報売上が前期比で大きく減少しました。

損益につきましては、遺伝子破壊マウス作製に係る研究開発費が減少したほか、経費等の見直しを進め、コスト削減に取り組んだ結果、経常損失が928百万円（同1,299百万円の損失）、当期純損失が964百万円（同1,349百万円の損失）となり、赤字幅を大きく縮小することができました。

Topics

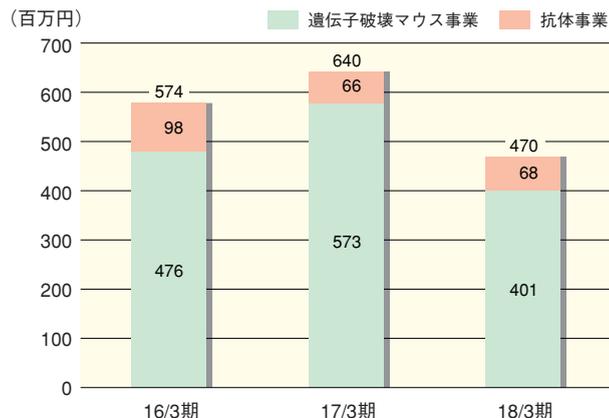
診断薬メーカーと測定試薬開発契約を締結

尿サンプルによる癌診断に利用される体外試薬開発の検討のため、抗ジアセチルスベルミン抗体を提供してまいりましたが、平成17年4月、診断薬メーカー1社と「尿中ジアセチルスベルミン測定試薬開発契約」を締結いたしました。

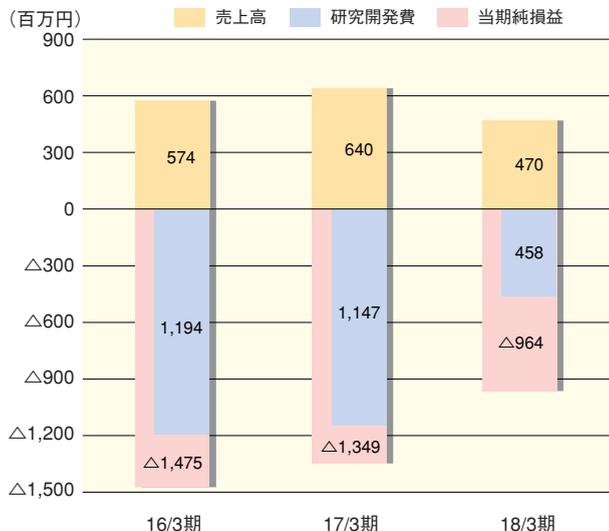
株式会社日立製作所ライフサイエンス推進事業部と研究開発支援サービスで業務提携

平成17年10月、株式会社日立製作所ライフサイエンス推進事業部と研究開発支援サービスに関する業務提携を行いました。当社はこれまで作製してきたノックアウトマウスライブラリーを有効活用することができ、日立が有する各種ゲノミクス、プロテオミクス解析の研究受託を組み合わせることで、より高度かつワンストップなサービス提供が可能となります。

売上高の推移



損益の状況



セグメント情報

■ 遺伝子破壊マウス事業

遺伝子破壊マウス事業における遺伝子情報売上では、アステラス製薬株式会社及び住友化学株式会社の2社に対し遺伝子破壊マウスから得られる情報を優先的に提供する契約のうち、遺伝子配列情報の提供が完了しました。今後は表現型解析情報の提供、継続的使用権の許諾を有償で行ってまいります。また、現在のところ2系統が共同による特許出願に進んでおり、将来のマイルストーンフィーやランニングロイヤリティの前提となる特許出願に多くものが移行できるよう、取り組んでまいります。非独占的に情報を提供する枠組みにおいては、日本チャールス・リバー株式会社と提携するなど販売網を強化した成果もあり、売上が増加しました。

これらの結果、遺伝子情報売上は、配列情報開示が完

了したことによる同売上高の前期比減少が大きく、前期比46%の209百万円となりました。

一方、製薬企業及び大学等からの受託事業収入につきましては、新たに導入した高効率のES細胞を用いた作製受託が増加し、また顧客のニーズに対応し、積極的に受注を獲得することができたこと等により、受託事業収入は前期比165%の192百万円となりました。



〈遺伝子破壊マウス〉

■ 抗体事業

抗体事業における製品売上では、糖尿病に対する関心が高まるなか、AGE製品の売上が増加したほか、新たに取り組んでいる尿サンプルによる癌診断薬開発に係る売上が増加しております。売上高は前年同期比106%の44百万円となりました。

受託事業は、GANPマウスを用いた高親和性抗体の作製受託等が増加したものの、政府系受託が大幅に減少したこと等から、前期比95%の23百万円となりました。

抗体事業における高付加価値ビジネスとして期待しているGANPプロジェクトは、高親和性抗体作製受託が順調に増加しているほか、抗体医薬や診断薬を開発する製薬企

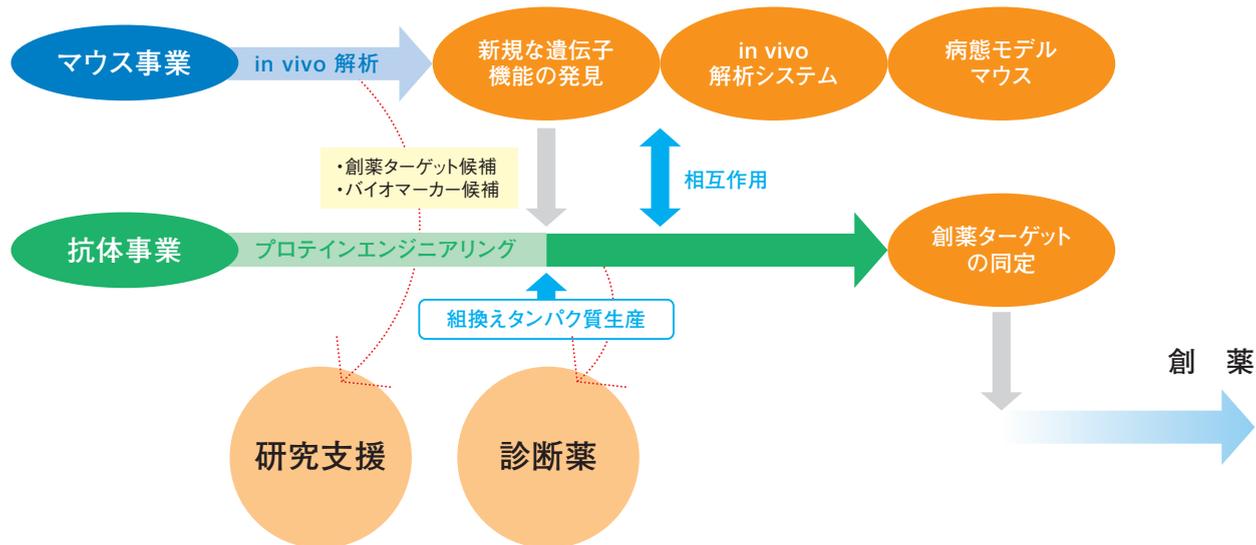
業、診断薬メーカー等にGANPマウスを提供し、有用性の検討を実施いただいております。また、尿サンプルによる癌診断薬開発の状況としては、診断薬メーカー1社と製造承認申請に向けた臨床開発を開始しております。



〈尿中ジアセチルスペルミン測定用 ELISAキット〉

今後の事業展開

■今後の事業展開



■自社での創薬ターゲットの探索・同定に向けて

遺伝子破壊マウス事業におきましては、アステラス製薬株式会社及び住友化学株式会社への優先的な配列情報の開示が完了し、今後は表現型解析情報の提供、継続的使用権の許諾、共同による特許出願を経て、将来のマイルストーンフィーやランニングロイヤリティを獲得する次なるステップに進みました。優先的な配列情報開示が完了したことに伴い、当社は、自社での創薬ターゲットの探索・同定に取り組むとともに、これまで行ってきた非独占での情報提供サービスを統合し、新たな枠組みでビジネスを立ち上げてまいります。

遺伝子破壊マウス事業における上記2社への優先的な情報提供の枠組みにおいて、創薬研究開発に有望な成果が得られ、2件の共同特許出願を行っております。これにより、当社の遺伝子トラップ法を用いた創薬アプローチ手

法が創薬標的の探索研究に有用であることを確信いたしました。今後、2社とのさらなる成果の追求を進めると同時に、独自技術である可変型遺伝子トラップ法を用いて作製した生命資源を活用し、自社での創薬ターゲットの探索・同定に取り組んでまいります。

すでに、当社では蓄積した遺伝子破壊マウスや遺伝子を破壊したES細胞（遺伝子破壊ES細胞）を用いて、表現型解析や臓器別タンパクレベル発現解析を実施することにより、創薬ターゲット候補となる遺伝子の絞り込みを行ってまいりました。今後は、プロテオーム解析等を用いてさらに絞り込み、これまでに培ったin vivo解析技術や技術の習得を進めているタンパク質関連技術（プロテインエンジニアリング）とを活かし、自社での創薬ターゲットの同定に取り組んでまいります。

■非独占のビジネスを新たな枠組みで立ち上げ

また、当社が作製した生命資源を非独占的に情報提供するビジネスにつきましては、トラップ ライブラリー（仮称）という新たな枠組みでビジネスを立ち上げてまいります。

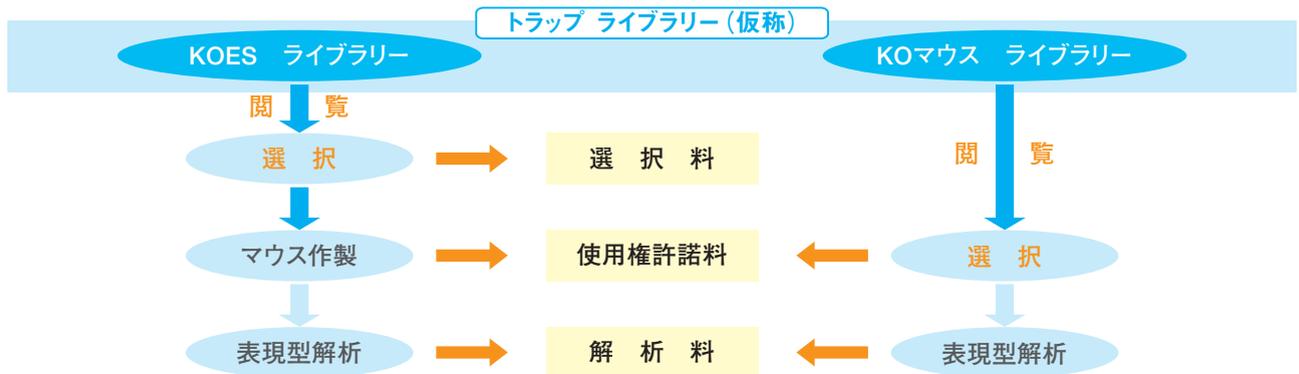
まず、当社が作製し、保有する生命資源についての情報をウェブ上で閲覧できるようにし、国内及び海外の製薬企業、研究機関等に対して一斉・同時に情報提供を行えるようにいたします。また、国内は日本チャールス・リバー株式会社と代理店契約を締結、海外は現在選定中であり、販売網を整備し、営業力の強化を図ってまいります。

次に、トラップ ライブラリーで提供する情報は、遺伝子破壊マウスに加えて、遺伝子破壊ES細胞の情報も提供してまいります。遺伝子破壊マウスのライブラリー（KOマウスライブラリー）情報については、遺伝子破壊マウスの使用権許諾を行ってまいります。遺伝子破壊ES細胞のライブラリー（KOESライブラリー）の情報については、選択料をいただいた後、当社が遺伝子破壊マウスを作製し、使用権許諾を行ってまいります（下図）。また、当社はマウスの作製や追加試験・解析等の依頼があれば、これに応えてまいります。

これら施策により、当社が蓄積した生命資源をよりグローバルに情報提供することが可能となり、提供する情報数も大幅に増加させることができます。

抗体事業におきましても、当社が特許を出願している測定系を用いた癌診断薬の開発において、診断薬メーカー1社と開発契約を締結しております。GANPプロジェクトにおいても、今期に入り、診断薬メーカー1社と特許のライセンス契約を締結し、体外診断薬の製造承認に向けた臨床開発を開始しております。

当社は、遺伝子破壊マウス事業においては自社による創薬ターゲットの同定、抗体事業においては上記取り組みが進展するなど、より高付加価値なサービスを提供できる体制が整ってきております。これまでに作製した生命資源の有効活用を図るビジネスの拡大と合わせて、3～5年内の黒字化に向けて邁進してまいります。



財務諸表

貸借対照表

(単位：千円)

科目	前期 平成17年3月31日現在	当期 平成18年3月31日現在
(資産の部)		
流動資産	3,056,042	4,239,951
① 現金及び預金	2,356,378	1,014,382
受取手形及び売掛金	183,310	71,728
① 有価証券	349,828	2,998,289
棚卸資産	77,277	71,665
その他	89,449	83,975
貸倒引当金	△ 202	△ 90
固定資産	564,850	898,923
有形固定資産	299,538	590,400
① 建物	64,355	385,644
工具器具及び備品	173,452	132,943
その他	61,728	71,812
無形固定資産	52,441	33,432
投資その他の資産	212,871	275,090
投資有価証券	133,000	218,951
その他	79,871	56,139
資産合計	3,620,893	5,138,875

POINT

1

●現金及び預金の減少、有価証券及び建物の増加
手元資金の一部を運用目的で有価証券を取得したことにより、現金及び預金が減少し、有価証券が増加しました。また、平成17年7月に神戸研究所が完成したことに伴い、建物が増加しました。

科目	前期 平成17年3月31日現在	当期 平成18年3月31日現在
(負債の部)		
流動負債	699,178	565,908
短期借入金	382,000	204,000
未払金	216,898	79,753
前受金	54,968	36,598
1年内償還予定社債	—	200,000
その他	45,312	45,555
固定負債	1,228,000	154,523
社債	200,000	—
② 新株予約権付社債	850,000	—
長期借入金	178,000	134,000
その他	—	20,523
負債合計	1,927,178	720,431
(資本の部)		
② 資本金	3,014,765	4,855,225
② 資本剰余金	3,098,297	4,917,755
利益剰余金	△ 4,418,707	△ 5,383,031
その他有価証券評価差額金	—	30,276
自己株式	△ 640	△ 1,782
資本合計	1,693,714	4,418,444
負債・資本合計	3,620,893	5,138,875

POINT

2

●新株予約権付社債の減少、資本金及び資本剰余金の増加
平成16年8月に発行した転換社債型新株予約権付社債の残額が当期中に全て株式に転換されたこと、及び平成17年11月に発行した転換社債型新株予約権付社債は、2億円の買入消却を行い、残りは株式に全て転換されたことにより、資本金、資本剰余金がそれぞれ増加しました。また、これらに伴い新株予約権付社債がなくなりました。

■ 損益計算書

(単位：千円)

科 目	前 期	当 期
	平成16年4月1日から 平成17年3月31日まで	平成17年4月1日から 平成18年3月31日まで
売 上 高	640,195	470,127
売 上 原 価	228,980	314,727
売 上 総 利 益	411,215	155,400
販売費及び一般管理費 (うち研究開発費)	1,706,702 (1,147,608)	1,075,697 (458,028)
③ 営 業 損 失	1,295,487	920,297
営 業 外 収 益	24,578	20,625
営 業 外 費 用	28,104	28,732
経 常 損 失	1,299,013	928,404
特 別 損 失	44,816	30,145
税引前当期純損失	1,343,829	958,550
法人税、住民税及び事業税	5,900	5,773
当 期 純 損 失	1,349,730	964,323
前 期 繰 越 損 失	3,068,977	4,418,707
当 期 未 処 理 損 失	4,418,707	5,383,031

■ 損失処理

(単位：円)

科 目	前 期	当 期
	平成17年6月29日	平成18年6月28日
I 当期末処理損失	4,418,707,563	5,383,031,070
II 資本準備金取崩額	—	4,917,755,195
III 次期繰越損失	4,418,707,563	465,275,875

POINT

3

● 営業損失の縮小

遺伝子破壊マウス事業において配列情報の提供が完了したことにより、売上高が減少しましたが、これに係るマウス作製費用が大きく減少すること等により、営業損失は920百万円となり、損失額は前期に比べ375百万円縮小しました。

■ キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

科 目	当 期
	平成17年4月1日から 平成18年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	△ 823,493
投資活動によるキャッシュ・フロー	△3,090,908
財務活動によるキャッシュ・フロー	2,572,302
現金及び現金同等物の増減額	△1,342,099
現金及び現金同等物の期首残高	1,925,993
現金及び現金同等物の期末残高	583,894

前期は連結キャッシュ・フロー計算書を作成しており、当期よりキャッシュ・フロー計算書を作成しているため、前期との比較は行っておりません。

POINT

4

● 特別損失の計上

神戸研究所稼働に伴い、これまでの本社研究所で使用しておりました有形固定資産の一部を除却及び売却したことによる固定資産除売却損を特別損失に30百万円計上しました。

POINT

5

● 営業活動によるキャッシュ・フロー、投資活動によるキャッシュ・フローの減少及び財務活動によるキャッシュ・フローの増加主に遺伝子破壊マウスの作製、遺伝子機能解析、創薬ターゲット候補の探索等への研究開発の支出により、営業活動の結果使用した資金は823百万円となりました。また、新株予約権発行等の財務活動により2,572百万円の資金を得ました。

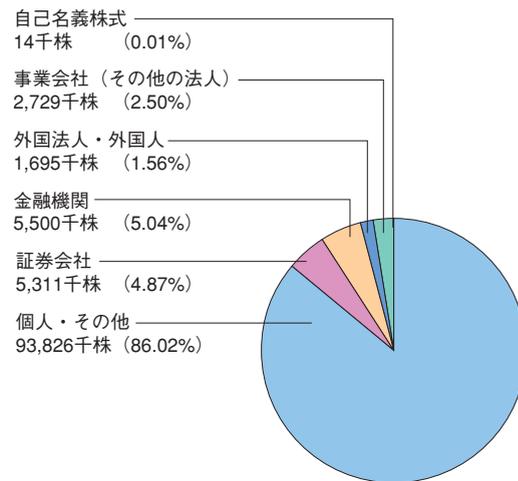
上記調達資金の一部を手元資金の運用として2,998百万円使用したほか、本年7月に稼働した神戸研究所の設備資金支払に407百万円使用したこと等により、投資活動の結果使用した資金は3,090百万円となりました。

株式の状況 (平成18年3月31日現在)

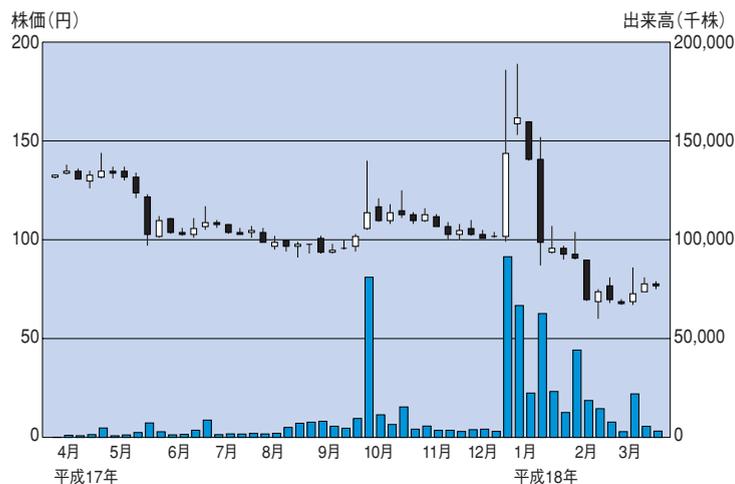
- 会社が発行する株式の総数 281,347,000株
- 発行済株式の総数 109,075,446株
- 株主数 15,051名
- 大株主の状況

株主名	持株数(千株)	議決権比率(%)
井出 剛	3,191	2.93
大阪証券金融株式会社(業務口)	2,734	2.51
松井証券株式会社(一般信用口)	2,303	2.11
日本生命保険相互会社	1,350	1.24
ライブドア証券株式会社	1,142	1.05
第一生命保険相互会社	1,050	0.96
電源開発株式会社	900	0.83
佐賀 芳行	800	0.73
是石 匡宏	724	0.66
パークレイズバンクピーエルシー・パークレイズキャピタル セキュリティズエスピーエル/ビービーアカウント	704	0.65

所有者別株式分布状況



株価及び出来高の推移



株主メモ

- 事業年度 4月1日～翌年3月31日
- 定時株主総会 6月
- 中間配当金
受領株主確定日 9月30日
- 期末配当金
受領株主確定日 3月31日
- 1単元の株式数 1,000株
- 株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
三菱UFJ信託銀行株式会社
- 同事務取扱場所 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
- 同 取 次 所 三菱UFJ信託銀行株式会社 全国各支店
野村證券株式会社 全国本支店

郵便はがき

810-8790

料金受取人払

福岡中央局
承認

5702

差出有効期間
平成18年12月
31日まで
(切手不要)

(受取人)

福岡市中央区天神1-1-1
アクロス福岡東館9階

株式会社トランスジェニック

経営企画室 IR担当者 行



フリガナ			
ご氏名			
ご住所	〒(-) (都・道・府・県)		
お電話番号	()		
性別	男・女	年齢	()歳
株式 投資歴	a. 3年未満 c. 10年以上20年未満	b. 3年以上10年未満 d. 20年以上	